

YAC本部運営委員会 おとな部会報告

平成23年1月22日

日本宇宙少年団本部運営委員会
おとな部会

分団設立のためのガイドブック見直し

現行のガイドブックは1997年2月、当時設立された組織運営検討委員会マニュアル作成分科会で作成、発行されたものであり、現在では変更しなければならない箇所が見られる。そのため新規分団結成の際、原則的なものを除き、見直しが必要となった。また、今後発行されたものについては、組織の变革や運営のあり方と共に、常に運営委員会による見直しが必要となる。特に分団設立に至るまでの指導書的なものが必要。

・設立のためのガイドブック

→簡易版を作成(本日公布)

・『リーダーのためのガイドブック』(改訂版)の見直し

→サイズを小さくして『リーダーズ必携』を作成。(未実行)

その他: JAXA - 『宇宙活動のガイドブック』

学校に活動基盤をおく宇宙少年団の構想 ～ハイスクール宇宙少年団～

構想のイメージ

- 宇宙教育の構想の下、同好の生徒が集まり宇宙教育活動を、クラブ活動・部活動の領域で活動する土俵を設ける。
- 多様な設立動機を大切にする
 - 新規の構想で立ち上げる
 - 既存の「科学クラブ」に、宇宙少年団の看板を掲げる。
 - * 所属者はあくまでも、その学校の生徒であり、学校のクラブ・部活動管理規定のもと活動する
 - * 管理機関誘導、教諭提案、保護者提案、同窓会提案
- 単年度契約にし、年次更新手続きをとる
- 結果として現在微増に留まっている、YAC団員数をかなり拡大するかもしれない
- 当分の間、特別分団として仮に設定する。運営委員会と連携しながら本部の「運用裁量」の一環とする。
(サテライト分団設定の文脈と同様の対応とする)

- 目的

宇宙少年団の成長盛りの高校生を、宇宙教育の趣旨にもっと出会わず機会を設ける。宇宙少年団の年齢層を広げることができる

- 学校を基盤にする事の重要性

指導者に適切に指導者プログラムをうけてもらえ、適切な活動を展開してもらえるなら、確実な宇宙教育活動が展開できる。

一定の指導技量をもった指導者がいる。

プロジェクトマネジメントの手法が活用・定着できる

豊かな活動ベースがある

方法

設立条件

指導者に複数のSELが所属(社会人参加をすすめる)

校長を通して申し込み

学校のクラブ・部活動規程を満たしている

その他

年度更新手続き

会費の納入は今後検討

宇宙少年団員の受けることができる待遇をうけることができる

宇宙パスポート等は、当分の間シーツ添付対応にする。

- 活動内容

- 共通プログラムの展開

- 水ロケット大会へのゲスト参加

- 缶サット甲子園への参加

- 地元宇宙少年団などで「お友達リーダー」として活躍

- 科学クラブは新鮮な活動の題材を求めている

- 部活的な宇宙教育活動を、ややフォーマルな視点で

- 展開でき、これがきっかけで学校教育そのものに活動が

- 展開できる可能性がある

- その他

- 本部登録料

- 分団長会議にはオブザーバー

宇宙少年団本来の社会教育の要素をどのように担保することができるかは課題